

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 ()
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
 〔建物形式〕 1 棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

社会福祉法人佛子園が運営する障がい児のための施設で、金沢市南郊の住宅地の奥、高尾山のふもとにある自然豊かな遊び場である。竹林と小川に挟まれた土地で、屋外には遊具や水場などがあり、子どもたちは自然を感じながら思いっきり体を動かすことができる。障がい児の放課後デイサービスや一時支援と、障がい者の就労支援を行う。

■施設概要

所在地：石川県金沢市高尾1丁目27番地1

サービス内容：児童発達支援

放課後等デイサービス（10名）

日中一時支援、相談・情報提供

就労継続支援B型

運営主体：社会福祉法人佛子園

運営開始：2008年

■運営概要

ここでは、障がい児のデイサービスと、障がい者の就労支援を主なサービスとして運営している。放課後等デイの定員は10人で、小学生低学年から高校生まで幅広い学年の子どもたちが利用している。利用頻度はまちまちだが、だいたい1人のこどもが週2、3日利用している。就労支援を行っているのは5～6人の障がい者で、中には以前デイサービスを利用していた方もいるという。

立地は静かな住宅地の奥、高尾山のふもとにあり、鳥のさえずりや川の流れる音、竹のすれる音など自然を感じることができる。

普段、晴れている日は子どもたちは外遊びをすることが多く、屋内と屋外をベランダ（デッキ）がつなぎ自由な行き来が可能である。広々とした屋外で、思う存分走り回ることができ、子どもがそのままの自然のなかでのびのびと自分の感性を育むことができる。



写真2. 周辺状況 (google map より)

金沢市南郊の住宅地の奥、高尾山の麓に位置する。堰堤の北側には水路、南側には竹林があり、自然に囲まれた立地である。



写真3. キッズベランダのロゴ

『ベランダ』は人が集まるという意味が、『Be』には～できる、そこにいる、佛子園のBなど様々な意味が込められており、それはエイブルベランダと同様である。

参考文献

1) 社会福祉法人佛子園 HP

<http://bussien.com/veranda/index.html>

参照 平成 31 年 2 月 15 日

障がい児の公園デビューの場として

障がい児の保護者が、社会で子育てするときが一番初めに感じる壁が、公園デビューだという。障がい児は、一般の子に比べて感情の起伏が激しかったり暴力的になってしまう。そのため、公園で遊んでいる他の子どもを傷付けてしまったり、周囲からの視線を意識してしまったりと、公園に行くことをあきらめてしまう親は沢山いる。公園は子どもにとってだけでなく、親にとってもほかの親との情報交換やコミュニケーションをとれる重要な場である。育児の悩みや意見交換をほかの親と共有することができないまま、孤独になってしまう親のためにも、障がい児であっても気軽に利用できる遊びの場が必要だと考から生まれたのがキッズベランダ Be だ。

障がい児のための支援だけでなく保護者でも利用することができるよう、施設内には売店があり、子どもが遊ぶ姿を眺めながら談笑できるスペースが設けられた。



写真4. 建物内部

ログハウスをイメージして建てられており、内部全体に丸太材が使われている。内部は広くはないため、天気の良い日は外での活動が主だという。



写真5. 外部の遊び場

屋外スペースが充実しており、公園のような遊具や砂場、ベンチ、ステージがある。写真右手には竹林が迫る。



写真6. ベランダへの出入り口

メイン棟はコの字型になっており、自由にベランダや屋外との出入りができるようになっている。



写真7. 衛星写真 (google map より)

メイン棟の横に売店棟があり、ベランダでつながる。川と竹林に囲まれた自然豊かな空間である。